

平成二十二年度 入学試験問題 第二日

国語総合・現代文

— 次の文章を読んで、後の問（問一～問六）に答えよ。

市場社会において、^{だん}「誰もが必要とするもの・必要としないもの」を提供している、ということとは、提供したものを買う人がいて、はじめて確認される。このことは、たとえば私がコツコツと靴を仕上げ、その買い手が現れて代価を払ってくれる、といった事例においては、なんらアンフェアなものを秘めていないように見える。

もちろん、私が靴を仕上げるときに用いた皮が、どこで・どのように死んだ動物から剥^はがされて、どのようにして私が買える材料になったのか、という過程を微細に追跡したならば、もしかしたら、そこにはアンフェアと疑われる出来事が関与しているかもしれない。

A、一たび皮が商品として市場に登場した後の過程にかぎれば、私が皮を購入して加工し、出来上がった靴を市場に出して、その代価を得るといふ過程には、とりたててアンフェアなものがあるように思えない。

しかし、^ア「すべての働きにかんして、そう言えるとはかぎらない。いま、あなたは、山林の手入れをする仕事をしている、としよう。あなたの、この仕事は、社会的にきわめて有用である。森林を保全するということは、熱帯雨林にくらべると微々たる量だとはいえず大気中に酸素を供給し、山の保水能力を維持して災害を防ぎ、沿岸海域に養分を供給して漁場を維持する等々、さまざまな形で、それこそ「誰もが必要としているもの」を提供している。

では、あなたは、市場社会において、この重要な働きへの対価をどのように得ることができるのだろうか。それは他でもない、樹木を伐採したときに、その木材の買い手が現れるとき、またそのときにかぎってのみ、あなたは、辛うじて自分の働

きへの代価を得ることができ。もし木材への需要が激減すれば、あるいは安価な代替木材が市場にもち込まれたら、もはや、いくら一生懸命に森林を保全し続けたところで、あなたはまったく代価を得ることができない。相変わらず「誰もが必要とするもの」を提供し続けているにもかかわらず、ここには、市場経済に特有の問題が露呈している。すなわち、労働の対価の一部が支払われない、という問題である。

大気中の酸素、山の保水能力、沿岸海域に流れる養分といったものは、すべて掛け値なく「誰もが必要としているもの」である。それらの供給が途絶えるなら、確実に万人が困窮する。しかし、市場社会においては、これらを提供する働きそのものに対しては、X。それは他でもない、大気中の酸素、山の保水能力、沿岸海域への養分のどれをとっても、それら売ってくれという買い手が現れないから、である。

「社会的に有用」だということは、「誰もが必要とする・必要とする」ということである。ゆえに、社会的に有用なら、少なくとも誰かは買う。すなわち、「社会的に有用であるなら、買い手がつく」。これが、市場社会の基本法である。そうであるかぎり論理必然的に、「買い手が見つからないなら、社会的に無用だ」ということになる。

この不条理な事実を、経済学では、つぎのように説明されてきた。いわく、森林を保全する労働がそうであるように、ある経済活動は、市場で対価を受け取ることなしに、他の経済主体に恩恵（あるいは被害）を与えることもある。こうした対価なき授受は、「外部経済」あるいは「外部不経済」と呼ばれるのだが、市場経済には、多かれ少なかれ、こうした「外部性イがともなう、云々うんぬん」。

ここでは市場経済そのものについては論じない。しかし、二つのことだけは確認しておかねばならない。第一に、いかに重化学工業化が進んだとしても、たとえば化学合成物の分解過程の問題（いわゆる環境ホルモンの問題）ひとつとっても明らかのように、人間の経済活動もまた、継ぎ目なき生態系の複雑な網の目に依存している。一九世紀ならいざ知らず、この期に及んでなお「外部性」の問題を、あたかも少数の例外事例であるかのように扱って、市場をつうじた配分の合理性を強調するとしたら、それはむしろ知の退嬰たいえいにさえつうじよう。

第二に、より重要なのは、「外部不経済」の処理であるよりも、むしろ「外部経済」（対価なき利益の提供）の処遇のされ方である。外部不経済の場合は、公害に典型的に見られるように、被害をこうむった人々の側から損害の補償が要求され、加害の防止が求められる。したがって経済理論の側でも、そうした費用負担を、たとえば「排出権の売買」といった形で「内部化」していくシナリオを比較的考案しやすい。しかし、「外部経済」の場合、その恩恵は、森林保全の労働の場合にそうであるように、あたかも自然現象であるかのごとく、視野の外におかれてしまう。

B、ハチが花の蜜を集めて巣にもどるのは、自然現象でしかない。したがって、花を育てる仕事、養蜂業者に対して外部経済（対価なき利益の提供）の関係にあるとしても、そうした外部性は、自然現象の一環と見なしても大過ないように思える。しかし、外部経済を、すべてそう見なしてかまわないのではない。

先の例で続けて言えば、木材の価格が下がり続けるので、あるいは安価な代替木材が出回ってきたので、森林を保全する仕事がすたれた、としよう。すると、山の保水能力が減退して土砂くずれや洪水が頻発し、沿岸海域への養分の供給が途絶えて漁場が枯渇する。その結果、年々、龐大な災害対策費が積み込まれ、大衆魚が値上がり続ける。

このように、森林を保全する仕事の外部経済は、自然現象の一環であるかのごとく見なされて、そうした貢献に対しては対価が支払われないがゆえに、その仕事そのものが衰退する。

しかるに、こうした衰退は、標準的な経済学によれば、不採算部門からの労働力の撤退という、市場の合理的な調節作用として描かれる。**C**、そうした外部経済の途絶によってもたらされた巨大な外部不経済は、経済学的には、災害対策事業の拡大や大衆魚の値上がり等々の形で、むしろ国内総生産の増加として描かれる。

このように、継ぎ目なき生態系の働きをつうじた外部経済にかんしては、たんなる自然現象であるかのように扱われることによって、そうした外部経済の途絶によってもたらされた巨大な不利益は、廃棄物による環境汚染・公害のような外部不経済のように、直接に被害をうけた人々が訴えて市場の問題としてあらわになることがきわめて難しい。もし、経済学が生態学と協同して事態の究明にあたるなら、こうした外部性の問題は、もっか思われているより、はるかに複雑にして巨大

であることが判明するはずである。

(大庭健著『いま、働くということ』に基づく)

(注) ○環境ホルモン……生体内に取り込まれると、ホルモンに似た働きをする化学物質。生物界で近年観察されているオスのメス化や生

殖行動異常の原因ではないかと疑われている。

○退嬰……進んで新しいことに取り組もうとする意欲に欠けること。

問一 空欄 に入る最も適切な言葉を、次の1～6の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入せよ。

ただし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答番号は、 ・ ・

1 ところで 2 なるほど 3 しかし 4 のみならず 5 なぜ 6 言い換えれば

問二 傍線部ア「すべての働きにかんして、そう言えるとはかぎらない」とあるが、筆者はどのような仕事を指して、こう

述べているのか。最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

1 原材料から化学合成物を生成する重化学工業にかかわる仕事。

2 公害の被害者から損害補償を要求され、加害防止のために費用を内部化する仕事。

3 誰が必要とするものを提供しているが、その貢献に相当する対価を得られない仕事。

4 市場で購入した動物の皮を加工し、出来上がった靴を販売して代価を得る仕事。

問三 空欄 に入る最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 一文の代価も支払われない
- 2 わずかな代価しか支払われない
- 3 代価はその働きに応じて支払われる
- 4 代価は市場の外部で支払われる

問四 傍線部イ「外部性」の例として不適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。

解答番号は、

- 1 花畑でハチが集めた蜜の対価を得ることなく、園芸業者は養蜂業者に蜜を提供した。
- 2 企業が排出した廃棄物が環境を汚染し、近隣住民は補償費という対価を得ることなく健康被害を受けた。
- 3 木材需要の激減で木材価格が下落し続け、労働の対価が得られなくなったため、林業が衰退した。
- 4 山林を手入れし木材を販売する仕事のおかげで、酸素や山の保水能力、沿岸海域への養分が対価なしに供給された。

問五 傍線部ウ「外部経済の途絶によってもたらされた巨大な不利益」とあるが、どのような「不利益」を指しているのか。

最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 木材の供給が途絶えると多くの人が困るにもかかわらず、その売り手がないことから生じる不利益。
- 2 市場で求めた原材料を用いて製造・販売する過程で、アンフェアな取引が行われていたことから生じる不利益。
- 3 外部経済の抱える問題を例外事例として扱い、生態学との連携を拒んできた経済学がもたらした不利益。
- 4 森林保全に携わる労働がもたらす恩恵が失われることで、水産資源の減少や災害を招く不利益。

問六 本文の内容と合致するものを、次の1～6の中から二つ選び、その番号を記入せよ。順序は問わない。

解答番号は、

8

9

- 1 生態系の働きと密接な関係にある外部経済は、自然現象のごとく扱われることによって、労働の対価の部分的不払いという側面が見えにくくなっている。
- 2 市場社会は、市場経済とその外部との関係において大きな問題をはらんでおり、その欠陥を補うような政策を模索する必要がある。
- 3 外部経済は他の経済主体に利益を与えるが、外部不経済は他の経済主体に被害を与えるため、その対処方法をより慎重に考えなければならない。
- 4 林業のように、社会にもたらす恩恵が大きくても、採算がとれない産業からの労働力の撤退は、市場を通じた配分の合理性がもたらす結果として評価できる。
- 5 市場社会においては、万人が必要とするものを提供していても買い手がつかなければ、社会的に有用なものを提供しているという確証を得られない。
- 6 外部性の問題は、他の経済主体から恩恵あるいは被害を受けた経済主体が、それに見合う対価を支払うことによって解決される。

二 次の記事を読んで、後の問（問一～問七）に答えよ。

音楽は聴くものであると同時に、読んで理解するものである。そして音楽を正しく読むためには、「学習」が必要となってくる。文法規則を知り、単語を覚えなければならぬ。音楽には語学と同じように学習が必要な面がある——これが意味するところはつまり、「音楽にも国境はある」ということにほかならない。サウンドとしての音楽は国境を越えるだろう。甘い囁きや苦悶の絶叫は、細かい意味内容を知らずとも、万人に理解出来る。だが言語としての音楽は、文法と単語をある程度知らなければ、決して踏み込んだ理解はかなわない。例えば記号的な音の使い方は西洋音楽に限ったことではなく、中国の京劇だとか日本の歌舞伎や近世邦楽にも無数に例があるはずだが、私にはそうした知識がない。だからいつまで経ってもそれらを「サウンド」としてしか聴くことが出来ない。理解が深まっていかない。国境の壁（邦楽に国境の壁を感じるというのも変な話だが、近代の日本人にとって邦楽は外国語のようになっていくということだろう）を越えることが出来ないのである。

確かに文学の場合、国境によって囲い込まれてしまう傾向は、音楽よりさらに強いかもしれない。音声的にまったく異なる言語体系に移し変えられてしまうと、響きと意味とイメージがないままになった言葉の体感のようなものが、決定的に失われてしまうわけだから。そこへ行くと音楽は、少なくともそのサウンドでもって、直接すべての人々に訴えかけている幻影を演出することは出来る。文学と比べれば音楽は、「ある程度は」国境を越えている。それでもなお、音楽にもまた「語学の壁」が存在していることは、右に見た通りである。

にもかかわらず、それでは一体なぜかくも頻繁に A という表現を人が口にするのかと考えたとき、これと密接に関わっていたと想像されるのが、「音楽は語れない」のイデオロギーである。音楽は言語では語れないサウンドだからこそ、国境を越えて誰にでも直接訴えるのだ。もし音楽がそれ自体言語であるなら、人はそれを理解するために学ばねばならない。それでは分かる人と分からない人が選別されてしまう。「音楽は語れない」と「音楽は国境を越えた言葉だ」

は、ともに B であるという点で、根は同じなのである。音楽は誰にでも分からなくてはならないという呪縛じゆばくである。

「音楽は国境を越えた言葉だ」という言い方がいつ生まれてきたものなのか、寡聞にして私は知らない。だが「語れない」というイデオロギーと同じく、それが一九世紀の産物であることは、まず間違いないだろう。そもそも近代的な意味での「国境」の概念が生まれてきたのが、まさにこの頃なのである。一九世紀は国民国家の時代であった。言語と民族と歴史を共有する「国民」が一つの独立国家を形成するという考え方は、この時代に初めて誕生した。一九世紀になって初めて、民族／言語が国家の統一単位（イタリア語、ドイツ語、ポーランド語、チェコ語等々）だと考える人々が出て来たのである。

だが同時に民族独立運動の一九世紀は、人々が全人類の融和の夢を見始めた時代でもある。かつての教会や国王のような、超国境的な統治者がいなくなった世界に、いかにして再び統一を与えるか？ こうした状況の中で特別な使命を与えられたのが、C ではなかったか。つまり、言語が世界を構成する「国家／国民」という単位にアイデンティティーを与えたとすれば、言語による分割を再び無効にして、感動の坩堝つぼの中で世界を再統一するのが音楽というわけである。「いざ抱き合え、幾百万の人々よ！」——ベートーヴェンの《第九》が描いたのは、まさにこうしたユートピアであったと、私には思える。

もう少しうがった言い方をするなら、D とも考えられよう。周知のように一九世紀になると、数多くの民族が独立した国家を作ると希求すると同時に、自分たちの国民アイデンティティーとしての音楽を持つことを熱望するようになる。ウェーバーやヴェルディやショパンといった、国民楽派の作曲家たちは、こうした背景から登場してきた。そして国民音楽は民族を結集させるアイデンティティーの核であると同時に、その民族文化を 国境 を越えて普遍化する役割を与えられていた。それに最も成功したのはドイツであったわけだが、自国の音楽を世界基準として流通させる際の標語が、「音楽は言葉ではない／国境を越えている」だった可能性は、それが潜在意識的なものであったとしても、かなり高いはずだ。本当はその文化に精通しなければ理解のかなわぬ「言語」であるかもしれない音楽を、

自国の中心性は隠したまま、「国境を越えている」と言い立てて世界に広めるわけである。

例えばショパンの音楽を「ポーランドの魂」と呼び、それがポーランド人以外には理解不能であることを言外に匂わせつつ、それを「国境を越えた言葉」と信じる日本人や中国人やアルゼンチン人に弾かせ、そして「世界言語としてのショパンの音楽」の中心地であるワルシャワのショパン・コンクールへと詣でさせるといったからくりには、^オ「国境を越えた音楽」イデオロギーの二重性が端的に現れているように思う。

(岡田暁生著『音楽の聴き方』に基づく)

問一 傍線部ア「音楽にも国境はある」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ

選び、その番号を記入せよ。解答番号は、10

- 1 音楽には、その国に生まれ育った者にしか理解できないサウンドがあるということ。
- 2 西洋の音楽と東洋の音楽の間には、記号的な音の使い方に決定的な違いがあるということ。
- 3 同じ国に生まれ育ったとしても、世代が違えば深く理解することができる音楽も異なるということ。
- 4 音楽には、記号的な音の使い方がある程度知らなければ深く理解することができない側面があるということ。

問二 空欄 A に入る最も適切な言葉を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、11

- 1 「音楽は読んで理解するものである」
- 2 「音楽にも国境はある」
- 3 「音楽は国境を越えた言葉だ」
- 4 「音楽にも語学の壁が存在する」

問三 空欄 **B** に入る最も適切な言葉を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 音楽の言語性格の肯定
- 2 音楽の言語性格の否定
- 3 言語の音楽性格の肯定
- 4 言語の音楽性格の否定

問四 空欄 **C** に入る最も適切な言葉を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 国境
- 2 言語
- 3 音楽
- 4 民族

問五 空欄 **D** に入る最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 音楽は自国中心文化のグローバル化を図るための、格好の手段であった
- 2 言語によって分割された国家が、民族によって一つにまとめられた
- 3 独立した国家のアイデンティティを形成する上で、民族は欠くべからざる要素であった
- 4 言語こそ、民族を再統一することができる唯一のものである

問六 傍線部イ・ウ・エの「国境」のうち、一つだけ意味するものが異なるものがあるが、それはどれか。次の1～3の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 イ
- 2 ウ
- 3 エ

15

問七 傍線部オ「『国境を越えた音楽』イデオロギーの二重性」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の

1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、16

1 「国境を越えた音楽」イデオロギーには、音楽は誰にでも分からなくてはならないという呪縛のような考え方と、細かい意味内容を知らなくても万人に理解できるサウンドとしての音楽は国境を越えるという考え方の二つが存在している。

2 「国境を越えた音楽」イデオロギーには、理解するための学習を必要としないからこそ音楽は国境を越えて誰にでも直接訴えるのだという考え方の内側に、自国の文化を国境を越えて普遍化しようとする意図が隠されている。

3 「国境を越えた音楽」イデオロギーには、音楽にも「語学の壁」が存在しているという考え方の内側に、音楽には語学と同じように学習が必要な面があるという考え方が含まれている。

4 「国境を越えた音楽」イデオロギーには、音楽を正しく理解するためには「学習」が必要であるという考え方の内側に、音楽にも国境はがあると主張して自国の音楽を世界に広めるような考え方が存在している。

三 次の各問（問一～問七）を読んで、それぞれの指示に従って答えよ。

問一 次のA～Dの各文の傍線部のカタカナと、その後の1～4の傍線部のカタカナが同じ漢字となるものをそれぞれ一つ

ずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A

17

・ B

18

・ C

19

・ D

20

A 一人の選手で点をカセいだ。

1 将来にカ根を残す。

2 大型設備がカ働する。

3 数日の閑カを得る。

4 責任を部下に転カする。

B 性コリもなく再び賭け事に手を出した。

1 断チヨウの思いで別れを告げる。

2 委員会でチヨウ罰を下す。

3 宴会の会費をチヨウ収する。

4 売り上げをチヨウ簿につける。

C 町をヌうように川が流れている。

1 ゴミ処理場はすでにホウ和状態にある。

2 バラの花が甘いホウ香を放つ。

3 西洋文明を模ホウする。

4 ホウ製のしっかりしたスーツを購入する。

D 子犬とタワムれる。

1 大学祭で模ギ店を出す。

2 シェイクスピアのギ曲を原典で読む。

3 遠からず嫌ギが晴れると信じる。

4 ギ式は滞りなく行われた。

問二 次のA～Dの各群において、漢字の読み方（カタカナ表記）が正しくないものはどれか。それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A 21 ・ B 22 ・ C 23 ・ D 24

- A
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 穩当（オントウ）
 2 囑望（シヨクボウ）
 3 如実（ジョジツ）
 4 棋界（キカイ）

- B
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 初霜（ハツシモ）
 2 広漠（コウバク）
 3 禍福（カフク）
 4 摘要（チャクヨウ）

- C
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 賄（ヌグ）う
 2 絡（カラ）む
 3 矯（タ）める
 4 謀（ハカ）る

- D
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 主宰（シユサイ）
 2 折衷（セツチュウ）
 3 枢要（クヨウ）
 4 権化（ゴンゲ）

問三 次の慣用句を含む文A～Dの に入る最も適切な語を、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A 25 ・ B 26 ・ C 27 ・ D 28

A このようなミスを繰り返さぬよう、我々は を正さなければならない。

- B
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 爪（つめ）
 2 指（さし）
 3 箸（はし）
 4 さじ
- をくわえてただ見ていることしかできなかった。

- C
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 |
- 1 畦（あぜ）
 2 藪（やぶ）
 3 林（はやし）
 4 森（もり）
- から棒に不用意なことを言っではいけない。

D 彼は社会的成功を収めたにもかかわらず、誰に対しても が低い。

- 1 目線 2 声 3 腰 4 腹

問四 次のA、Dの慣用句で、 に入る最も適切な語を、後の1～9の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入せよ。ただし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答番号は、A 29 ・ B 30 ・ C 31 ・ D 32

- | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| A 膝を <input type="text"/> | B 枕を <input type="text"/> | C 幕を <input type="text"/> | D 足を <input type="text"/> |
| 1 掬う | 2 向く | 3 笑う | 4 打つ |
| 6 引く | 7 追う | 8 濡らす | 9 括る |
| | | | 5 押す |

問五 次のA、Cの各群において、意味の似ているものの組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A 33 ・ B 34 ・ C 35

- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A | | | | B | | | |
| 4 議案 | 3 名案 | 2 提案 | 1 起案 | 4 夭折 | 3 不易 | 2 誇大 | 1 雄大 |
| | | | | | | | |
| 答案 | 妙案 | 原案 | 廃案 | 長命 | 流行 | 肥大 | 壮大 |

- | | | | |
|------------|--------|-----------|------------|
| C | | | |
| 4 嘘も方便 | 3 猫に鯉節 | 2 急がば回れ | 1 一芸は道に通ずる |
| | | | |
| 嘘つきは泥棒の始まり | 猫に小判 | 急いで事は仕損じる | 多芸は無芸 |

問六 次のA・Bにおいて、例文の傍線部と異なる意味・用法のものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A 36 ・ B 37

A 例 兄弟げんかをして弟は兄をにらみつけた。

1 捕まえたひったくりを電柱に縛りつけた。

2 怒った兄は弟を殴りつけた。

3 夏の強い日差しが容赦なく選手たちに照りつけた。

4 悪いことをした子どもを父親が叱りつけた。

B 例 祖母の昔話に孫たちは聞き入った。

1 子どもたちが寝入ったところ、サンタクロースがやってくる。

2 赤穂浪士が、吉良上野介の屋敷に討ち入った。

3 若者たちは、感じ入った様子でお坊さんの講話を聞いた。

4 神父に諭された泥棒は、心底わが身を恥じ入った。

問七 次のA～Dの傍線部の言葉の意味として最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入

せよ。解答番号は、A 38 ・ B 39 ・ C 40 ・ D 41

A 持病の状態が、はかばかしくない。

1 望ましくない

2 面白くない

3 思い通りである

4 特徴的だ

B 過去のしがらみを断ち切り、もう一度やり直そう。

- 1 つまらないもの
- 2 適当なもの
- 3 ひきとめるもの
- 4 魅力的なもの

C 長年続いた論争に、とうとうけりをつける。

- 1 あきらめる
- 2 結末をつける
- 3 後回しにする
- 4 文句を言う

D そんなにしゃちほこばらないで、気楽にしてください。

- 1 にやにやしないで
- 2 挙動不審な態度をとらないで
- 3 緊張してかたくなならないで
- 4 横柄な態度をとらないで

〔国語の問題は以上です。〕